府中町ふるさと歴史散歩〔第9回〕

国際理解教育と地域の文化財

安芸府中高校の国際科は県立高校では唯一であるため、担当者として交流のために訪れる高校生以外にも、高校教師の視察団や公務員の研修団の日中の受け入れとともに、頼まれてホームステイの受け入れをすることがある。（現在も、ホームステイ受け入れのボランティア登録を続けている。）その場合、半日～1日のフィールドワークが設定されることが多い。

府中町といえばまず「マツダミュージアム」が、町を代表する産業を見学してもらう場となる。現代の最先端の技術に参加者は興味をそそられ満足する。で、「次はどこ?」と問われると、「府中町は、現代の産業技術の先端をいくとともに、歴史の深さでも先端をいく町です。」と答えることにしている。

まずは、揚倉山健康運動公園に行き、府中町から広島市そして瀬戸内海へ続く眺望と清々しい空気に包まれながら、現在の地形と、古代の広島の市街地が海中であった地形の違いについて説明する。

その後、歴史民俗資料館を訪れる。エントランスから左に進むと、府中町全体の立体模型があり、時代とテーマごとにボタンを押すと紅い豆ランプがついてその位置を示してくれる。ささやかではあるが、大人もニコニコ見入ってくれる。続いて、2階の展示室へ。1万年以上前は日本列島が大陸と地続きであったことを示す地図がまず目を引く。その結果、古墳時代上岡田古墳出土の鉄刀片や須恵器と朝鮮半島・大陸とのつながりの話が興味を引き起こす。続いて、都へ往来する外国使節を接待するため、瓦葺・白壁に外観が整備された安芸駅跡と推定される下岡田遺跡から出土した軒丸瓦や須恵器の硯を見ながら、府中町が古代から安芸の国の重要な拠点として栄えてきた歴史の深さを感じ取ってもらう。その歴史は、水分神社遺跡出土品である鎌倉時代の「中国南部福建省産」と考えられる褐釉四耳壺や白磁、在庁官人田所氏の文書（広島県重要文化財）などをたどっていくことによりさらに納得してもらえるようだ。最後の高畝栽培と農家（一部）の実物大復元と民俗資料は「悠久のアジアのなかの府中」を実感させてくれる。

この後、新しい住宅群のなかささやかであるが保存の努力がしてある上岡田古墳と道隆寺を見、水分神社から登山道をゆっくり散策する。府中町の歴史と自然の豊かさを味わってもらい、場合によってはしろソバを食べて締めくくりとするのである。

府中町文化財保護審議会委員
堤　隆一郎
広島県立呉三津田高等学校教諭
（前広島県立安芸府中高等学校教諭）

問い合わせ
教育委員会生涯学習課
☎286―3272

『下岡田遺跡発掘調査概報　古代・中世建築遺構群　1966年度』より